

研究と創造を支える知的財産活動

基本的な考え方

当社は、社祖 豊田佐吉の精神を受け継いで制定された豊田綱領の「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」に基づき、研究と創造に積極的に取り組んでいます。その成果である発明やノウハウ等の知的財産権を通じて各事業の戦略に活かしています。また、国内外で知的財産権を確実に取得し、侵害防止に努めることで、知的財産の保有を通じた企業価値の向上に取り組んでいます。

技術ロードマップに沿った知的財産活動

2030年ビジョン達成に向けて技術開発が今後ますます重要となっていく中、当社は、技術開発部門が策定する技術ロードマップに照らし、どのような知的財産が事業において必要かを検討することに加え、競合の事業戦略等も見ながら、競争優位なポジションを築くための戦略を構築しています。

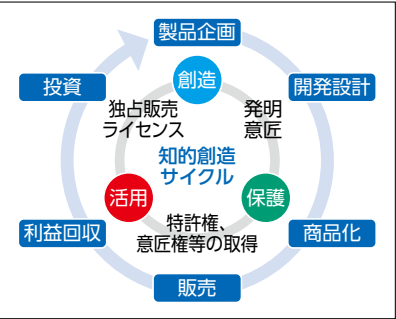
当社の事業領域は、IoT、AI、自動運転及びカーボンニュートラル等、新しい技術分野へと広がっており、そのような新しい技術にもしっかりとアンテナを立て、従来の知的財産権に加え、ノウハウ・ソフトウェアを含む知財・無形資産の積極的な創出により、競争力を高めています。当社は、IPランドスケープを専門とするグループを立ち上げ、業界の動向や将来性を探索し、開発のスピードアップに資する知的財産情報をタイムリーに展開し、当社が今後も社会に貢献していくよう、事業のサポートに取り組んでいます。

知的創造サイクルの好循環

当社では、知的創造サイクルのさらなる好循環をはかるため、今後「活用」の活性化に力を入れて取り組んでいます。

まず「創造」の段階では、事業部が技術開発を通じて生み出した発明を適切に「発掘」し、知財アセットとしての基盤を整備しています。

次に「保護」の段階では、発明を知的財産権として法的な保護可能な領域へと昇華させ、特許権取得のための出願権利化の手続きと技術支援を事業部とともに遂行しています。



知的創造サイクル

そして「活用」の段階では、得られた特許権を市場優位性の確保や収益への貢献に繋げるため、第三者へのライセンスや、意匠、商標、著作権を含む知財ミックスによって、権利活用の活性化をはかっていきます。

当社の強みを活かす知的財産活動

当社は、企業価値向上に向けて、ソリューション、モビリティ関連、シナジーの領域で、高い競争力を持つ知的財産の創出に取り組んでいます。

「ソリューション領域」では、物流ソリューション事業を中心に、他社連携/M&Aを通じて、自社の強み・弱みを相互に補完しながら、強固な特許網の構築に努めています。

「モビリティ関連領域」では、成長事業である「電動化」で競争力を高めるべく、当社の基盤事業であるコンプレッサー及びエレクトロニクス事業で培われた知的財産を活用するとともに、知的財産情報に基づく新たな発明の発掘に努めています。

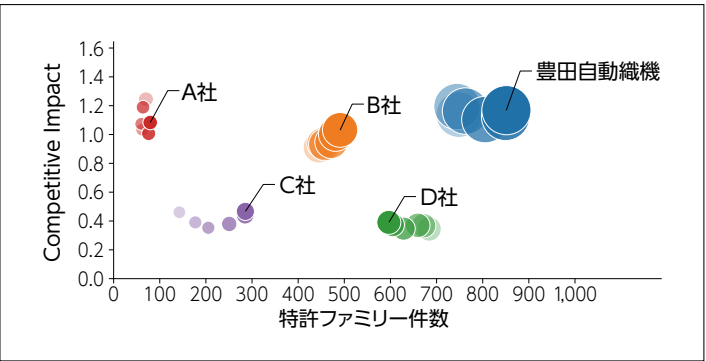
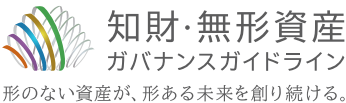
「シナジー領域」では、ソリューションとモビリティ関連の両輪を強みに、FC*、AI、電池等の分野で、知財の情報分析スキルを向上させ、イノベーションを促進させる活動を進めています。

*:FC＝燃料電池

特許資産価値の可視化

当社は、保有特許の客観的な評価指標として、米レクシスネクシス社のLexisNexis® PatentSight+を活用し、特許資産の価値を分析しています。当社は、「自動化・省人化」、「カーボンニュートラル」、「安全・快適」をキーワードとする産業車両部門の技術ロードマップに基づき、保有すべき技術について、当社の関係会社や競合他社の拠点がある日米欧の重要市場を中心に重点特許網を構築し、特許の量と質で、競合他社より優位性を保っています(右図参照)。

[参考にしたガイドライン]



当社保有特許のポジショニングマップ(産業車両分野)